

平成28年度 第2回学校評議員会 記録

平成29年2月21日(火)

14:45~16:50

場所:盛岡二高 応接室

進行:副校長 記録:総務課

○出席者 学校評議員 4名
学校職員 9名

○日程 13:30 受付 13:40 授業参観 14:50 評議員会(～16:50)

(1) 開会のことば 【進行:副校長】

評議員・職員 自己紹介

(2) 校長挨拶

日頃より本校の教育活動にご支援ご協力を頂き感謝申し上げます。本校の学校運営について忌憚のないご意見をいただきたい。我々の有様を良い距離感で観ていただけるのが学校評議員の皆様だと思う。この学校評議員会で我々の気づかない点を指摘していただき、今後の改善に繋げたい。ぜひ、我々に気づきを与えていただきたい。

(3) 平成28年度学校概況説明 (質疑含む)

ア 運営方針について (資料:平成28年度盛岡第二高等学校経営計画) 【校長】

まず、学年別進路学習会の出席率について、今年度1、3年生は午後2時の開催で目標の人数に届かなかった。目標の参加人数に届いた2年生は午前9時の開催であった。保護者に多く参加いただくためには、都合をつけてもらえる日時を良く検討する必要がある。

PTA総会の参加率については前年度よりも参加率が落ちた。PTA総会は金曜日の午後であることから都合がつけにくいのではないかと。また参加率が高い年は、体育の団体行動などアトラクションを行っていた。参加率が低いのが、学校への一定の信頼を得ていると言うことであれば良いが、参加率を上げるためにアトラクションなどを設けることについては少し疑問がある。

本校は、古き良き時代の盛岡二高のイメージを保ちつつ、他の学校にない良さを守っている。近年の学校再編により、盛岡にも学級減の流れが来ている。県教委では、平成31年には盛岡四高の1学級減、平成32年には、盛岡三高・盛岡北高・不来方高校の1学級減を既に決めている。盛岡二高に関しては10年前に1学級減で5学級になり、平成32年まではこの体制で行くことになっている。今後、盛岡二高の立ち位置にも変化があるのではないかと考える。盛岡二高は長期的にどのような学校として魅力を発信してゆかか、スクールアイデンティティをもってゆかかを、多くの方たちの知恵をお借りして考えていきたい。今の良さを失わない学校でいたいものである。

イ 各課の取り組み状況について

(総務課) 【総務主任】

- ・PTA総会の参加について

保護者の皆様は、学校や生徒に感心を持っていただいていると考えている。生徒を軸にして学校と保護者とがうまく協力関係を保てる状況が、望ましいPTAの有り方だと考える。

PTAは、学校や役員の方々、また理事さん方の連携もとても良い。来年度、東北高P連の大会も開催予定だが、盛岡二高は工藤会長を中心に、県でも中心的な役割を担うことになっている。

- ・同窓会について

創立120周年に向けて名簿管理を手がけている。2万人を越える同窓生のうち住所がわかっているのは、12,000人程度である。今回は名簿業者である「サラト」に委託し、名簿の精度を上げていきたいと考えている。同窓会でも「名簿編集委員会」を立ち上げた。今回の名簿は120周年には間に合わないが、130周年に向けて役立つものと考えている。

- ・120周年の募金について

平成28年8月に同窓生へ、平成28年11月に旧職員・現職員そして在校生の保護者宛に趣意書を送った。現在約940万円集まっている。募金目標は1,000万円であるが、実質的な記念事業の規模が大きくなってきており、今後更に寄付を募りたいと考えている。記念事業については、今まで本部事務局が大筋の方向性をつけてきたが、今後は同窓生、PTAの皆様も含めた各委員会が本格的に着手して活動していただく予定である。10月の式典まで、様々な記念事業を行う予定だが、110周年の時の反省を生かして横の連携を取りながら進めていきたいと考えている。

(教務課)【教務主任】

- ・生徒の学習面について

平成29年度から県下の高校では一斉に「観点別評価」が導入される。従来、期末考査によって評価されてきたが、来年度からはテスト以外の、生徒の学習への取り組みを様々な観点から評価し、全体の評価に繋げるものである。本校では55分授業を実施してきたが、他校で50分授業が多い中で55分授業を実施しているのが本校の特色のひとつである。これは、観点別評価を見据えているだけでなく、授業の中で生徒が主体的に考え取り組むための環境を整えるという趣旨のもとに行われている。アクティブラーニングを取り入れて生徒の意欲を高めるだけでなく、情報研究課とタイアップして教員の授業力向上やスキルアップをはかっている。

- ・主体的な学習態度の育成について

本校の生徒は素直で、一生懸命学習に取り組んでいるが、本来の主体的な学習がどれだけ根付いているかが本校の大きな課題と考える。まじめに取り組んではいるが、進路や試験で伸び悩んでいる生徒も多く、「わかる授業から身につく授業へのステップアップ」を目標に掲げて取り組んでいる。実際の方策は、学年や教科などに具体的に取り組んでもらっているが、生徒の前向き、主体的な取り組みについては、まだまだ不足しているのが現状である。来年度「観点別評価」に変わることを機に、いかに生徒の自主的・主体的な取り組みを涵養していくかが大きな課題である。

- ・開かれた学校づくりについて

外部の方々や中学生に本校を理解、あるいはPRしていこうということで、主に「一日体験入学」「学校へ行こう週間」また、保護者による「学校評価」などを実施している。

「中学生一日体験入学」は、生徒会や生徒などが学校の様子を紹介、内容も生徒が企画する等、中学生にも好評である。参加者も昨年度より131名増で少しずつ関心が高まっているように思う。これからも本校の在り方、目指すものも含めて考えていかなければならない。

(生徒指導課)【生徒指導主事】

・生徒規律の確立

制服やジャージの購入について、業者との連携が必要と考える。入室時の挨拶やマナーなどについても、以前は教えなくてもできていたが、それらについてもマニュアルや促すというような指導も必要と考えている。

今いちばん問題になっているのはスマホの使い方である。業者との連携として4月に1年生にドコモによる講習会をしている。来年度は全学年対象で講習会を実施する予定である。外部とのトラブル、生徒同士のトラブルが問題である。

・生徒会活動の活性化

今年度の全国大会出場は、運動部1、文化部6。生徒の部活動も3:7で文化部が多い。今年はなぎなたが活躍したが、校舎にかける懸垂幕も例年より多く9本である。来年の高総文祭に出場が決まっている部もあり、来年も活躍が期待される。

・120周年では、記念事業を担当しているが、新年度は招待試合を予定している。

(なぎなた4月、ハンドボール5月、バレーボール7月)

・安全指導の徹底

自転車事故が多い。中学校ではヘルメットを着用していたものが、高校ではヘルメットなしで遠距離の通学をする。学校周辺の自転車経路も複雑であることから、入学して早い段階での指導が必要と考える。交通安全事故カードを活用する方法等検討が必要である。

(進路指導課)【進路指導主事】

・進路意識の涵養

今年度の新たな取り組みとして、生徒向けの出前講座と、職員による大学訪問が上げられる。生徒向け出前講座は9月に1年生向けに岩手大学、県立大学を含む9大学12講座を開講した。教員の方は、北海道と関東の大学にふた手に分かれて大学訪問をした。大学が求める学生像であるとか大学が持っている学びを知るという意味で、とても有意義なものになったと考えている。引き続き次年度もより効果的なものにしていきたい。

・推薦入試指導の充実

昨年度推薦入試で合格したのは、4年制大学で66名(そのうち国公立25名)。一方で、短大と医療系の専門学校は明らかに減少傾向である。特に短大はここ数年で3分の1になっている。4年制大学や専門学校志望者の増加による短大の減少である。国公立大学の合格者は、25名から22名と減少しているが、挑戦する生徒は45名から56名と増加。合格率は下がっているが、挑戦する生徒が増えたことをプラスに考えて、希望した生徒が合格できるように指導方法を研究していきたい。

・一般入試指導の充実

今年度、国公立大学前後期合わせて78名が挑戦する。過去3年間は51名だったので、学年団を中心とした低学年からの指導の効果。現2年生1年生にも還元していきたい。

・進路情報の提供・発信

進路学習会は、2年生が土日の両日開催で共に午前中にやって結果を残している。午後開催だと1日拘束されると言う声もあったので、内容の充実と共に開催日時についても検討していきたい。

(保健厚生課)【保健主事】

- ・健康管理・安全管理の徹底

健康教室年2回開催。「心と体の健康教室」や「貧血、食育講話」「歯科保健講話」「薬物乱用防止講座」など行っている。感想文を書かせて講師に送っている。一頃問題になっていた、肥満や貧血は、県の平均値を下回って概ね良好。歯科については受診率が2割と低く、今後「歯科保健講話」を継続しながら受診率を高めていきたい。

- ・清掃・ゴミ処置について

清掃は、先生方がしっかり指導してくれるので良好。ゴミ処理は、割り当てがないとやらないという傾向があるので、今後対策を考えたい。分別ゴミについても、4月当初に徹底して指導する必要がある。

- ・保健室の利用について

昨年より減少して落ち着いている。

- ・「いわての防災スクール」

来年度も実践校を希望している。今年は、1年生が陸前高田に災害ボランティアに行った。被災の状況を実際に聞く事ができた。その後仮設住宅の草取りを行ったが、仮設住宅がどのようなものか、訪問して実情を知ることができた。

- ・自己管理能力の育成

生徒の中には、自宅近隣の病院でないと行けない生徒や、保護者と一緒でないと行けないなどの生徒がいるが、自分の健康は自分で守るということを指導する必要があると考えている。 ~15:32

(教育相談課)【副校長】

- ・教育相談課の一番の目標は、不登校への早期対応と学校不適応の予防である。現在不登校の生徒は、1年生2名、2年生1名、3年生は全員が卒業見込みである。全校で3名という数字は少ない。本校では、スクールカウンセラーは本校独自でお願いしているカウンセラーと震災後に県の事業としてお願いしているエリアカウンセラーと2名で行っている。新入生に対しては、グループワークを通して仲間づくりを行っている。心理検査などを活用して、ストレスやクラス中での位置を確認しながら、いじめの早期発見にも努めている。

(図書課)【副校長】

- ・図書の貸し出し数が予想以上に増えている。今年度の目標は3,000~4,000冊であったが、4,500冊に達しようとしている。4年前に比べて10倍である。また、本を読ませるだけでなく、感想文コンクールでも良い結果を残している。特に今年は「青少年読書感想文岩手コンクール」で課題図書と自由図書でそれぞれの最優秀賞に本校の生徒が選ばれた。また、課題図書2位の「県教育委員会教育長賞」も二高生であった。
- ・新聞を活用した「ミニプレ」も盛岡二高の学校文化として定着してきている。

(情報研究課)【副校長】

- ・今年大きな取り組みとして、災害時の一斉メール配信サービスを来年4月から実施するために準備を始めた。災害だけではなくPTA総会の案内や進路通信を配信するなど、多様な活用ができると考えてい

る。

- ・授業改善については、盛岡地区の中で本校の授業改善の取り組みが評価され、岩手県総合教育センターから発表依頼があった。校内でグループを組んで研究を重ねている。
- ・視聴覚委員会では、今年12年ぶりに交通安全CMコンテストで最優秀賞になり、IBCで12月から1月にかけて「歩きスマホはいけないよ」というキャッチコピーのCMが流れている。

ウ 学校評価結果について【副校長】

- ・学校評価は、12月に実施している。生徒・保護者・教員の回収率はほぼ100%である。全体的な傾向としては、60の質問の中で90%以上の肯定的な評価をえた質問は昨年より一項目増。逆に65%未満の低い評価の項目は昨年より一項目減である。すべての質問の平均数値も、昨年を若干上回っている。
- ・評価の高かった項目は、「生徒会活動や部活動の活発さ」で、三者共に非常に高い数値である。国体でのなぎなた部の活躍や、盛岡二高祭もIBCで放送された。今年の推薦入試の様子は、3社のTVが放送したが、すべて盛岡二高を取り上げた。また、「二高に入学して良かったか」という質問に対しては、保護者の評価が1ポイント上がって92という数字だった。しかし、保護者の評価が高いが、生徒の評価は下がっている。特に1年生の評価が低いのはなぜなのか。分析していかなければならない。
- ・評価が分かれた項目については、今年も例年と同じで「わかりやすい授業か」「学習指導が徹底しているか」また「応用力が身につく授業の実践」についての項目である。「わかりやすい授業か」については、生徒の評価は昨年より上がっている。この調査の他に、「授業評価アンケート」を行っているが、それを見ても生徒の授業満足度は上がっている。いちばん評価が低いのが「応用力が身につく授業の実践」だが、ここでも生徒の評価は昨年よりも3ポイント、保護者は6ポイント上がっている。1月の進研模試の結果を見ると1年生の国語の平均偏差値は県下で5番であった。これは近年にない良い結果である。2年生の英語はやる度毎に上位者が増えている。応用力が身につく授業の評価が少しずつ上がっているのもそういうところで影響しているのではないか。「保護者との連携を取りながら、進路指導を行っていると思うか」については、保護者との差はあるが昨年よりプラスのポイントが高くなっている。

(4) 懇談

【評議員】

- ・自転車事故が増えているという話だったので、十分に指導して欲しい。
- ・上の橋の工事があと一ヶ月続くため歩道が片側しか通れず、自転車は降りて歩くように表示してある。制服を着ている時は特にも、二高生であるという自覚を持って、ぜひ降りて歩いて欲しい。
- ・「学校へ行こう週間」は自分の子どもがいなくても、もう少し見に来て欲しいと思っている。
- ・二高のHPは大変多くの方が見ている。行事予定などを見ていると「好文の日」や「エリアカウンセラー」「SC」など、わからない言葉がある。4月当初に簡単な言葉の説明を掲載すると良いのではないかと。

【生徒指導主事】

- ・一年生を中心に自転車事故が増えてきたので、事故経験者に経験談やアドバイスを書いてもらって配布した。時期的なことでもあり、入学早々のガイダンスで指導したい。

【評議員】

- ・経験者の言葉は重いと思うので効果的。加害者になっても厳しい状況になる。併せて指導して欲しい。

【評議員】

- ・一斉メール配信はとても良いと思う。学校や生徒の情報が豊富で、リアルタイムで受け取れる。長文ではなく読みやすく箇条書きで書くと良いのではないか。
- ・PTA通信に“進路指導室リニューアル”と掲載されていたので、進路室を見学した。生徒が良く活用していて良いと思った。PTA会報も堅すぎず、とても読みやすくなった。

【評議員】

- ・図書貸し出しが4年前より10倍になったのには、何か理由があるか？

【生徒指導主事】

- ・一昨年から図書館事務補助の方が常駐していて、とても環境が整っている。古本にすべてカバーをかけたり、手間をかけてくれている。

【副校長】

- ・各クラスの図書委員を書店の支店長に見立てた独特の活動もあり、読書への意欲を喚起している。

【評議員】

- ・二高生の良さは感性が磨かれていることだ。本をたくさん読むということも感性を磨くことに繋がっていると思う。

【評議員】

- ・図書館補助の方がとても熱心で、工夫してやっているのが伝わってくる。その熱心さを見て、私も本を寄贈した事がある。

【評議員】

- ・補助の方のための予算があるのか？

【事務長】

- ・緊急雇用の一環で図書館に配置してもらっている。予算が続く限り継続したい。

【評議員】

- ・授業を見学して、先生方と生徒の距離が近く、とても良いことだと感じた。生徒ものびのびと授業を受けていて、変わらない盛岡二高の良さだと感じた。先ほどの図書の貸し出しが多いということも含めてまだまだ二高は可能性があるなと感じた。
- ・二高祭の時に知り合いが、どこを受験させるか迷っているという話を聞いた。そのとき、二高は少し学力が下がってきているので不安だと話していた。私は詳しく盛岡二高の良さを説明したが、この時、学校評議員の役目のひとつは二高をPRすることだと思った。先生方にもぜひ自信を持って指導していただきたいし、最終的にこの学校に入って良かったと思ってもらえるように頑張っていただきたい。

【副校長】

- ・進路について、1回目の評議員会でも少し外に目を向けさせるのも良いのではないかというご意見もあったが、そのあたりについてはどうか。

【進路指導主事】

- ・今の子どもたちは情報があふれている割には大学のことを知らない。できるだけ情報を提供したいと考えて進路通信を発行してきた。県内では学べない分野もあるので、広く世間を見て自分の可能性を探って欲しいと考え、1年生対象に出前講座を設定している。昨年の卒業生は、自宅から通える進路を選んだ生徒が6割近くまで増えた。今年は今まで先輩が行っていないような進路を選んだ生徒も出てきたので、少しずつ情報提供の効果は出てきたと考える。
- ・今年の反省点として、二高の推薦入試の強みは自負していたが、実は財産として蓄積されていないので

はないかと考える。今年は推薦希望者が多かった割には合格者が少なかった。推薦の先生方が指導したことを次年度にコメントとして残すようにしたいと考え、取りまとめている。今年は一般入試の生徒も増えているが、今後の入試そのものが単なる学力評価ではなく、いろいろな面を見られることもあって、二高生の力が発揮できる入試制度になってゆくのではないかと。そのあたりも意識して次年度も改良して指導していきたい。

【副校長】

- ・国公立大学については、全国に挑戦する生徒も増えてきている。今年5年ぶりに東北大学を受験した生徒もいたので、ぜひ頑張らせたい。ただし、推薦だけでは限界があるので、一般入試でもチャレンジしていかなければならないと考える。

【評議員】

- ・教師が一方的に教えるのではなく、もう少し考えさせて生徒とキャッチボールができて良いのではないかと。これは二高生だけではなく高校全体の問題だと思う。一方的な授業で、本当に生徒はわかったというところまで到達しているだろうか。わかった“つもり”がいちばん危ないのではないかと。

【副校長】

- ・岩手県では、英語で文科省と連携した学力向上の取り組みをしていて、今年は大東高校と盛岡二高が様々な研修の会場になっている。英語の先生方も積極的にアクティブラーニングに取り組んでいる。生徒の授業アンケートでも「生徒同士、あるいは先生とのコミュニケーションが活発ですか」という質問で、英語が一番高い評価を受けている。

【評議員】

- ・私が関与している専門学校で様々な賞をもらう生徒には、二高の卒業生が多い。二高生は、入学当初から理解力があり、成績が良いと思う。そのような資質を持った生徒が多いと感じている。そのことを思うと、在学中にもっと国公立などに多くの生徒にトライして欲しいと思う。以前言っていた「60」という数字をぜひ目指して欲しい。生徒の長い将来を考えたら、ぜひ挑戦させるべきだと思う。

【評議員】

- ・今回は、今まで見てこなかった授業を見てきた。書道や美術の授業を見ていて、二高生の感性はどこで磨かれているかわかった気がする。二高では、このような授業の単位数が多く、今後、観点別評価が導入される中で、学力だけではなく、まっとうな人間が育って欲しいと願う。二高は落ち着いた環境で人間性もとても良いと思う。

【評議員】

- ・私は長女をぜひ二高に入学させたかった。実際、伝統あるすばらしい学校で、入れて良かったと感じている。盛岡二高はかつて、中学生のあこがれの高校だった。そういう意味でも、先生方や生徒ももっと自覚と誇りを持って欲しいと考えている。将来に繋がる挨拶やマナーなど、白梅精神を大切にしたいと願っている。

【評議員】

- ・将来どんな人間になるかが大切。仕事に就くときにどんな人間が採用されるか。それは、素直でまじめな明るい人ではないだろうか。そのような人間力を培えるような指導をして欲しいと思う。その人と一緒に働きたいと思える人に育って欲しい。

【評議員】

- ・盛岡二高のすばらしい先輩である大西民子について、二高生はどれほど知っているだろうか。ぜひそのようなすばらしい先輩を知って、誇りを持って欲しい。

【評議員】

- ・毎年、大西民子の碑前際が行われているので、そのような行事もHP等で配信して欲しい。

【生徒指導主事】

- ・創立120周年記念事業として、芸術鑑賞会など同窓生に関わる行事が予定されている。具体的に決まったら、HPに掲載したい。

【評議員】

- ・中学校での説明会があると思うが、そのような機会を捉えて盛岡二高の良さを中学校に伝えてきて欲しい。

【副校長】

- ・パワーポイントのプレゼン資料なども活用し、盛岡二高の魅力を発信し続けていきたい。

(5) その他

ご退任（任期満了）になる評議員へ記念品贈呈